展示室２ **宮崎の美術** －クローズアップ1914

令和6年度 宮崎県立美術館 コレクション展第３期
令和6年10月 5日 ～12月22日

明治期以降、日本の美術は急激な西洋化の波にさらされます。日本の洋画家たちは、西洋画の写実表現や遠近法などを取り入れ、独自の表現を求めて模索を続けました。このような状況下で、国が主催する文展が創設されます。本県の洋画家では、西都市出身の塩月桃甫が、大正5（1916）年に文展入選を果たしました。また、都城市を代表する山田新一は、大正14（1925）年に文展を前身とする帝展に初入選し、中央画壇で活躍しました。一方、伝統的な日本画の世界においても、西洋画の要素や特徴を取り入れた新しい「日本画」への取り組みが進みました。本県を代表する日本画家として、文展で受賞を重ねるなど日本画界をリードした都城市出身の山内多門、同じく都城出身で、大正4（1915）年の文展において初入選で褒状を受けた益田玉城が挙げられます。

ここでは、これら宮崎県を代表する画家たちの作品を中心に紹介するとともに、1914年に生を受けた本県出身・ゆかりの5人の作家にスポットを当てた特集展示も行います。バラエティに富んだ作品をお楽しみください。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	河野　扶	1913～2002	木片	1958（昭和33）	62.1×45.7	油彩
2	河野　扶	1913～2002	ある風景	1996（平成8）	60.5×50.1	油彩
3	塩月　桃甫	1886～1954	読書	1952（昭和27）	33.5×24.2	油彩
4	塩月　桃甫	1886～1954	少女	1950（昭和25）	33.5×24.3	油彩
5	塩月　桃甫	1886～1954	野生馬	1953（昭和28）	53.0×65.0	油彩
6	山田　新一	1899～1991	人物	1958（昭和33）	72.2×61.0	油彩
7	山田　新一	1899～1991	山岳	1955（昭和30）	37.9×45.5	油彩
8	中澤　弘光	1874～1964	早春	1908（明治41）	50.0×60.5	油彩
9	児島　虎次郎	1881～1929	サイネリア	不明	80.5×65.3	油彩
10	岡部　南圃	1807～1873	龍之図	1869（明治2）	140.0×51.6	水墨
11	山内　多門	1878～1932	山水図	不明	130.3×30.6	水墨
12	山内　多門	1878～1932	水辺青柳	不明	127.2×51.0	日本画
13	益田　玉城	1881～1955	花盛り	不明	130.4×51.0	日本画
14	益田　玉城	1881～1955	秋高雄	不明	129.7×33.1	日本画
15	大野　重幸	1900～1988	鵜	1956（昭和31）	150.4×210.8	日本画
16	朴　清丹	1914～1988	蛇蝎釉壺	1972（昭和47）	32.0×30.7	陶器
17	雨田　正	1914～1995	つつじ丘	1982（昭和57）	32.2×41.1	水彩
18	雨田　正	1914～1995	湖畔	不明	38.1×45.9	水彩
19	坂本　正直	1914～2011	ふるさとの山　韓国岳の絶壁	1983（昭和58）	116.7×91.0	油彩
20	吉賀　幸夫	1914～2007	松	1972（昭和47）	130.0×162.4	油彩
21	松井　富民夫	1914～1976	聖母マリヤ	1957（昭和32）	116.8×91.0	油彩
22	松井　富民夫	1914～1976	ヨハネ黙示録	1973（昭和48）	162.0×130.5	油彩